

Title	癌と人 第31号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 31
Issue Date	2004-05-10
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/23593
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

第31号 目次

◎ 題 字 ◎

財団法人 大阪癌研究会
前理事長 千代賢治



* 表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気(癌)の格好が蟹に似ていたのでそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本でいう癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス(蟹)という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

- ごあいさつ..... 1
松本圭史
- 前立腺癌治療についての最近の動向..... 2
松本圭史
- 増えるがんと減るがん..... 5
田口鐵男
- 煙草と癌.....10
小塚隆弘
- 乳癌の術前化学療法.....12
田口哲也
- 大阪消化管がん化学療法研究会(OGSG)のあゆみ(2)——平成13年1月~12月——.....15
古河洋
- 臨死体験.....17
岩永剛
- “目をみはる成果”
快便促進食により大腸がん検診発見率が向上
.....24
藤田昌英・阪本康夫
- 造血器腫瘍とP13-キナーゼ活性.....27
北中明
- 新種のインターフェロンLimitin.....28
織谷健司
- 細胞周期チェックポイントにおけるChk1の生体内機能の解析.....30
丹伊田浩行
- 肝臓癌の腫瘍血管新生へのephrin-B1の関与について..... 31
福井浩司
- 癌の遺伝子治療
——新規の遺伝子導入ウイルスベクターの開発に向けて——.....32
岡田尚巳
- 研究生活の因果は巡る.....33
中島利博
- 癌細胞を眠らせる遺伝子
——静止期特異的に発現する新規遺伝子
TIGAIの機能解析——.....34
藪田紀一
- 脂質薬剤代謝調節因子である核内レセプターと癌.....36
榎島誠
- 酵素活性制御と癌.....37
穴戸知行
- 酵母を使った癌の研究.....38
高橋考太
- サイトカインシグナル抑制機構と癌.....40
舩廣善和
- “夢の癌ワクチン開発へ向けて”.....41
鳥越俊彦
- 平成14年度事業報告.....43
- 平成14年度収支計算書等.....48
- 平成15年度事業計画書.....52
- 平成15年度収支予算書.....53
- 平成15年度寄附者御芳名.....54
- 財団法人大阪癌研究会寄附行為.....61
- 財大阪癌研究会役員・評議員・賛助会員名簿.....64